

長岡市中之島地域の

史跡と歴史・文化の散策ガイド



与板歴史民俗資料館前に建つ直江兼続像

直江兼続と中之島



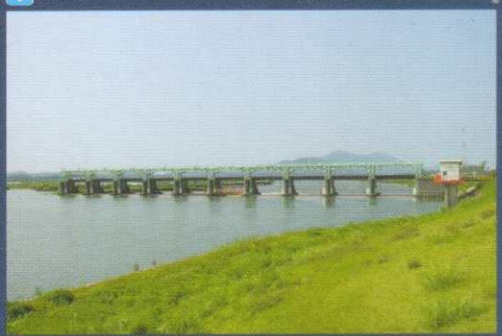
複製品 金小札浅葱糸威二枚胴具足
原資料 上杉神社(米沢市)所蔵
(与板歴史民俗資料館展示品)

中之島地域ふるさと創生事業実行委員会
長岡市中之島観光協会
中之島郷土史研究会

長岡市中之島地域散策ガイドマップ



1



16



5



7



8



11



9



13



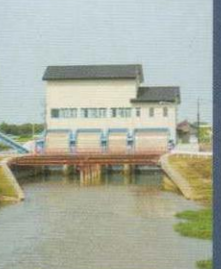
18



2



3



17



15



19



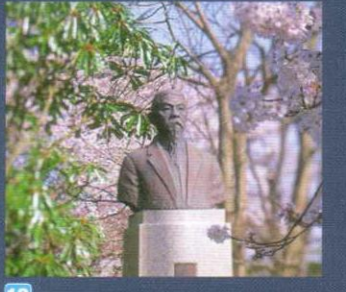
4



10



6



12



14

直江兼統と中之島

中之島地域は大河信濃川をはさんで対岸の与板とは、古くから政治・経済等で深く結びついている。中世の越後は、上杉家により統治され、与板城主であった直江家も、主君上杉景勝公の会津移封まで、中之島に大きく関わっている。中之島地域の歴史・文化を知るうえで、与板城主であった直江兼統は重要な存在である。

直江兼統 (1560-1619)

長尾正景の家臣、樋口惣右衛門兼豊の長男として坂戸城下(南魚沼市)に生まれる。御館の乱後、論功行賞のもつれから急死した直江信綱の妻おせんを娶り、直江家を継いだ。山城守を名乗り、武芸、学問、治世に優れ、上杉景勝の参謀として活躍した。

1 直江家と本与板城・与板城(城山)

与板城は、建武年間(1334年-1336年)に新田義顕一族の籠沢入道が築城したといわれている。その後、上杉謙信の重将、直江景綱の居城となり、信綱、兼統と3代に亘って直江家が城主となった。そして、それまでの本与板城に次いで、新たに築いたのが与板城である。城跡一帯は今でも城山と呼ばれ、山頂の本丸跡からは与板、中之島を一望できる。この城で慶長3年(1598)まで戦乱の世の平定に尽くし、産業の振興等にも貢献した。

4 願勝寺

中之島の古刹、願勝寺は上杉家の命により永徳7年(1564年)に現在の地へ移転した際に山号を「春日山」と改めた。次いで上杉景勝から「勝」の一字を授けられて「願証寺」を「願勝寺」に改めたと伝えられている。

5 中条日枝神社御神輿巡行神事

注2
市無形文化財の中条日枝神社御神輿巡行神事が行われる日枝神社と大行事神社は上杉景勝の家臣、中条越前守の祈願により創建された。白狐が先導し集落内を巡る巡行行列は、今も往時の祭りの盛大さを偲ばせるものとなっている。

6 中之島諏訪神社

承久2年(1220年) 信州諏訪大社から招請分霊された。現在の建物は平成16年の7・13水害後河川改修事業により現在地へ移転したものである。拝殿正面の龍の彫物は名匠、石川雲蝶の作と伝えられている。

7 稲島稲荷神社

稲島集落の鎮守として勧請された神社である。豊川稲荷より分霊したといわれている。商売繁盛・病氣平癒の稲荷として全国から参拝客が訪れる。寄贈された沢山の赤い鳥居が、信仰の深さを物語っている。

8 鞍掛神社(県指定文化財)

弘仁13年(822年)の創建とされ、祭神は弥彦神社の異母弟で可美真手命と伝えられる。元禄4年(1691年)に再建された現在の社殿は「寄棟造り妻入り」という中世の流れをくむ建築様式で、平成4年に新潟県の有形文化財に指定された。

9 杉之森の薬師如来像(県指定文化財)

注3
神龜3年(726年) 行基菩薩北陸巡錫の際の作と伝えられ、波羅門僧正の開眼といわれている。平成10年の調査の結果、鎌倉時代の仏師により造られた秀作であると判明し、平成11年に新潟県の有形文化財に指定された。

10 光正寺本堂(長岡市文化財)

浄土真宗大谷派金剛山光正寺。戊辰戦争の際に焼失した本堂を明治28年に再建。樹齢数百年の樫の巨木を用いた本堂は、随所に古建築の建築様式を取り入れ、重厚な風格を保っている。

11 若宮神社の友情の双像

高橋竹之介が開いた「誠意塾」で、ともに学んだ武石貞松(漢学者)と堀口九萬一(外交官)の友情を表したブロンズ像。双像の作者は貞松の実弟、武石弘三郎(当時、彫刻界の重鎮)。題字と詩文は九萬一の長子、堀口大学(詩人)の筆による。

12 大竹邸記念館(長岡市文化財)

注4
郷土の生んだ偉大な政治家、大竹貫一の生家が

「大竹邸記念館」として庭園とともに公開されている。刈谷田川改修や大河津分水路の実現のため自らの私財を投じ尽力された遺徳を顕彰するための記念館には、遺品・記念品等が陳列されている。「憲政の神様」「国士」と呼ばれた大竹貫一の残した功績は、計りきれない。

13 高橋竹之介の碑(生家跡)

戊辰戦争後、長岡市殿町に「誠意塾」を開き、多くの門下生を輩出した。その中には武石貞松(漢学者)、堀口九萬一(外交官)、頭山満(国士)などがいる。竹之介の書いた「北越治水論」は大河津分水着工を進めるうえで、有力な論文であったといわれている。

14 与茂七地蔵

正徳3年(1713年) 水害後の処理等を巡り、名主であった大竹与茂七が、庄屋との紛争の末、死罪にされた与茂七を祭った地蔵尊。一身を犠牲にして村人のために尽くした与茂七の行動は、現在も義民与茂七として語り継がれている。毎年6月には供養祭が行われている。

15 入澤邸記念庭園

日本の近代医学会に、大きな足跡を残した入澤家を顕彰する庭園公園。同家出身の池田謙斎は東京帝国大学医学部総理・明治天皇侍医局長官、入澤達吉は東京帝国大学医学部部長・日本内科学会会頭・大正天皇侍医頭を務めた。公園は生家跡に造られている。

16 大河津分水

信濃川下流域の治水の要である大河津分水は享保20年(1735年)以来、多くの人々の悲願とされてきた。明治42年に着工し、22年間で費やして昭和6年に完工した。この工事のお陰で洪水の心配が無くなり、人心の安定と米作りの飛躍的な向上へとつながった。

17 吉原義雄と大沼排水機場

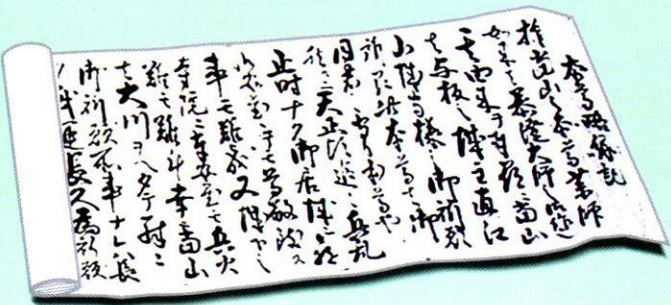
この地に生まれた吉原義雄は明治、大正、昭和の初めにかけて刈谷田川改修、第一次県営用排水事業、福島江改良工事等多くの治水、土地改良工事に関わり、地域に大きく貢献した。大沼排水機場は第一次県営用排水事業で初めて造られ、改良された今も重要な治水施設である。

18 刈谷田川大堰と俳人佐野良太句碑

宝暦2年(1656年)に最初の堰止め工事が行われて以来、刈谷田川の利水のために造られた刈谷田川大堰は、中之島だけではなく見附市、はては三条市までの農地を潤している。その傍らには近郷の俳句文化に大きな足跡を残した佐野良太の句碑が建立されている。

19 中之島・今町大風合戦

注5
毎年6月に刈谷田川を挟んで、中之島と見附市今町との間で行われている大風合戦は、天明年間に刈谷田川の堤防の地固めに行われ、現在に至っている。畳8枚分の大風が空中で絡みあう様子は壮観であり、多くの観客を集めている。



本尊略縁起

本尊略縁起

折当山之本尊薬師

如来は奉澄大師之御作也

其由来を奉レ尋二当山

は与板之城主直江

山城守様之御祈願

所即此本尊は御

同君之守り本尊也

.....

満福寺所蔵 天保十一年の文書 (二八四〇)

お問い合わせ先

長岡市中之島支所 〒954-0192 長岡市中之島788番地
中之島地域ふるさと創生事業実行委員会 (長岡市中之島支所地域振興課内: 0258-61-2010)
長岡市中之島観光協会 (長岡市中之島支所産業課内: 0258-61-2013)
中之島郷土史研究会

注1: 「薬師如来像」と「阿弥陀絵像」は通常は非公開

注2: 毎年4月15日に開催

注3: 見学には事前の連絡が必要

注4: 開館日は毎月第1・第3金曜日、第2日曜日(開館日以外は連絡が必要)

注5: 毎年6月の第1土曜日~月曜日に開催